

2008年3月期 決算説明会

東洋シャッター株式会社



2008年6月

目 次



1. 2008年3月期 経営環境

2. 2008年3月期 決算概況

3. 2009年3月期 業績計画

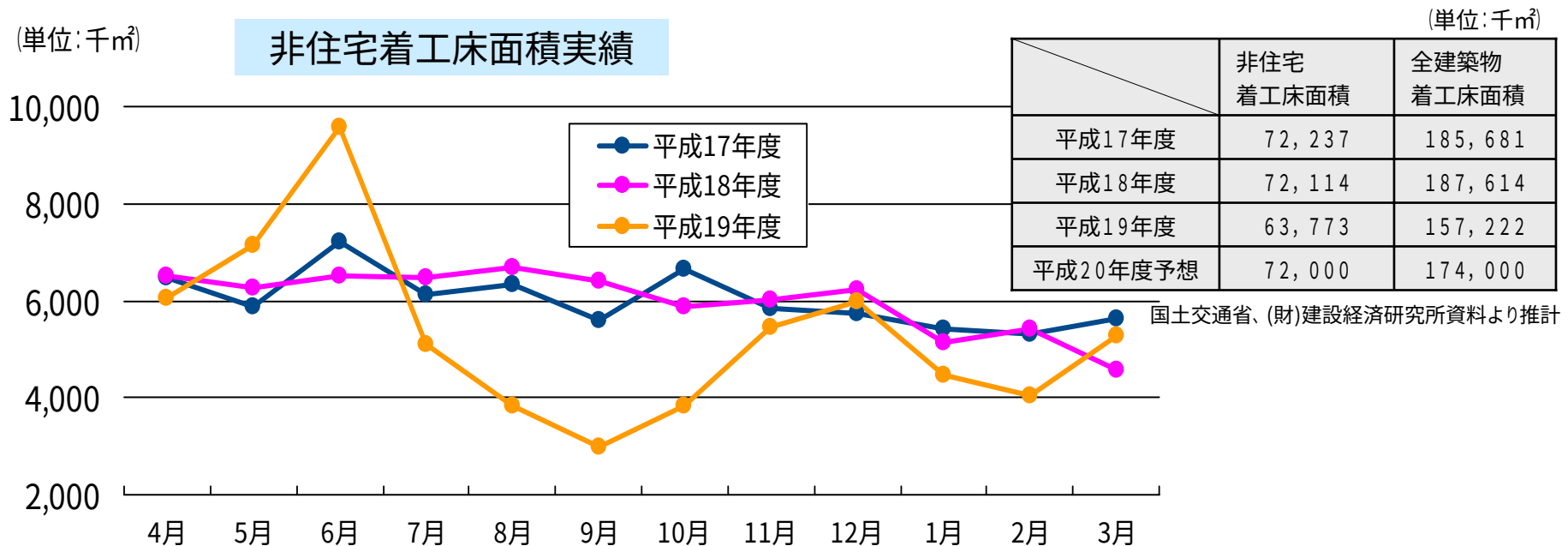
参考資料: 東洋シャッターについて

2008年3月期 経営環境

建築基準法改正
非住宅の着工が
下期に急減

高採算である
短納期の小型案件
が大きく減少

通期の営業利益を
押し下げ



新中期経営計画『レボリューション3』

TOYOShutter

経営ビジョン

- すべてはお客様の笑顔と満足のために
 - 感動と感激を迅速に提供できる企業と社員
- ① 安全、安心、健康、快適、感動の提供
 - ② 社会に貢献する企業と社員

経営戦略

- 新たな発展へ向けて基盤作りを目指す
- 継続的な「大胆な改革と組織の活性化」



中期経営計画「レボリューション3」 の修正について

TOYOShutter

修正理由

- ① 建築確認厳格化による着工の遅れ
- ② 外部環境悪化による受注競争の激化



収益重視による
選別受注

【修正計画】

(単位:億円)

	07年3月期実績	08年3月期修正計画	09年3月期修正計画
売上高	212.5	220.0	220.0
営業利益	9.6	7.3	10.0
経常利益	8.0	6.1	8.8
当期純利益	7.4	24.5	8.0



【R3当初計画】

	07年3月期	08年3月期	09年3月期
売上高	210.0	220.0	235.0
営業利益	10.0	12.5	14.0
経常利益	8.5	11.5	13.0
当期純利益	8.0	11.0	12.0

目 次

1. 2008年3月期 経営環境

2. 2008年3月期 決算概況

3. 2009年3月期 業績計画

参考資料: 東洋シャッターについて

2008年3月期 決算のポイント

TOYOShutter

売上は期初計画を達成。環境変化による下期の落ち込みが、営業利益率を押し下げ。

売上高

前年同期比+4.0% (期初計画比+0.5%)

売上高 22,105百万円

営業利益

前年同期比△23.1% (期初計画比△40.6%)

営業利益 742百万円

当期純利益

前年同期比+228.8% (期初計画比△18.2%)

当期純利益 2,447百万円 (代行返上益19億円)

2008年3月期 損益計算書の概要

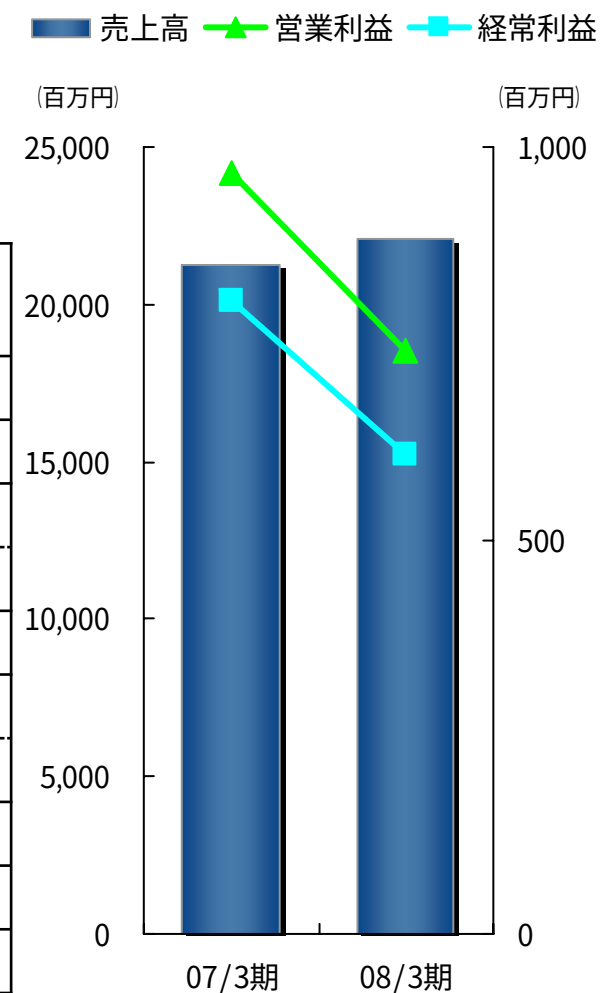
TOYOShutter

採算の悪化

- 利益率の高い短納期案件の急減
- 低採算大型案件の受注消化

(単位:百万円)

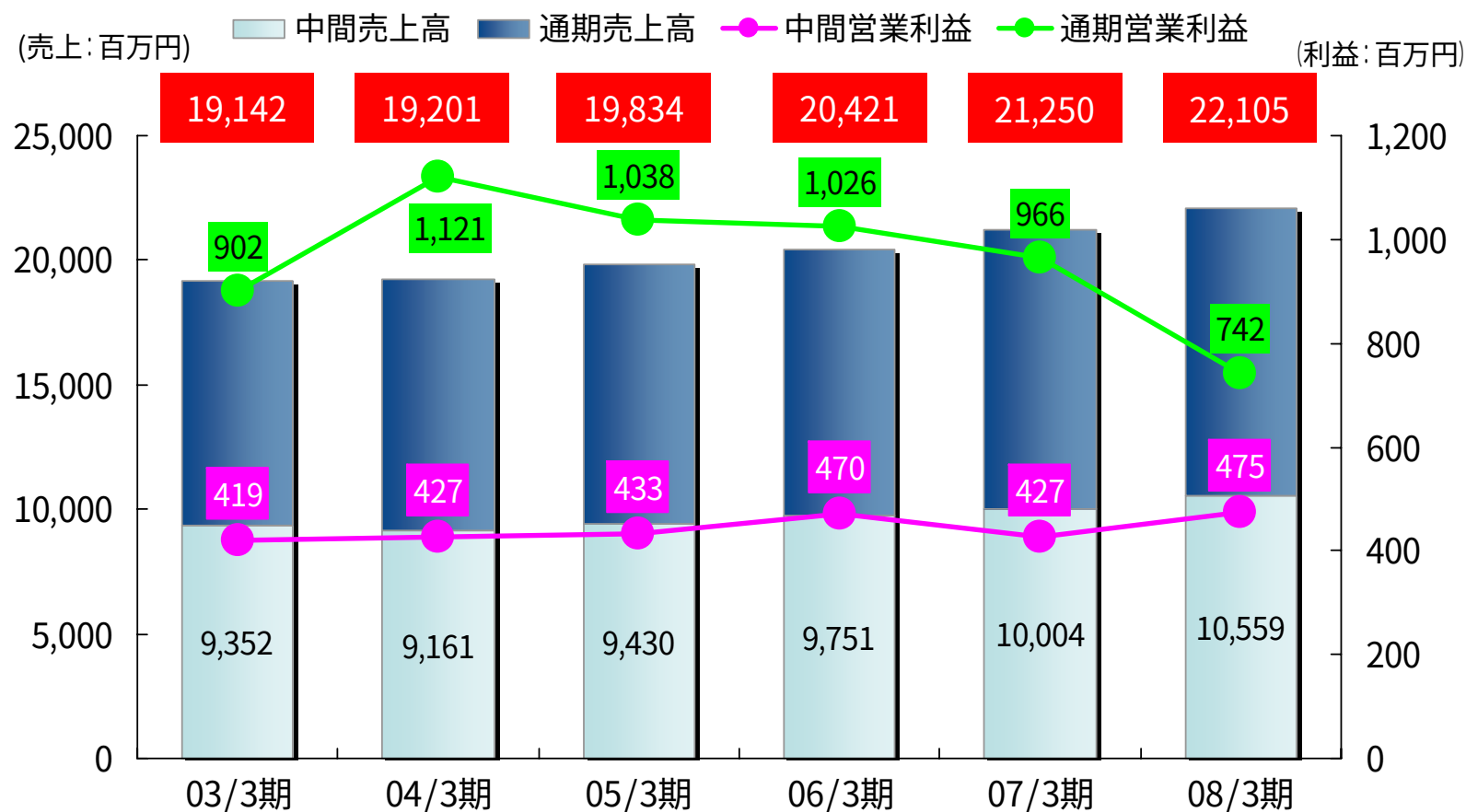
	07/3期 決算	08/3期 期初計画	08/3期 決算	前年同期比 増減
売上高	21,250	22,000	22,105	4.0%
売上原価	15,840	—	16,750	5.8%
売上総利益	5,410	—	5,354	△1.0%
売上総利益率	25.5%	—	24.2%	△1.3pt
販管費	4,443	—	4,611	3.8%
営業利益	966	1,250	742	△23.1%
営業利益率	4.6%	5.7%	3.4%	△1.2pt
経常利益	805	1,150	608	△24.4%
当期純利益	744	2,990	2,447	228.8%
減価償却費	396	—	390	△1.5%



業績推移

TOYOShutter

従来、期間営業利益の55%程度計上していた下期が、08年3月期は36%に低下



製品別売上明細

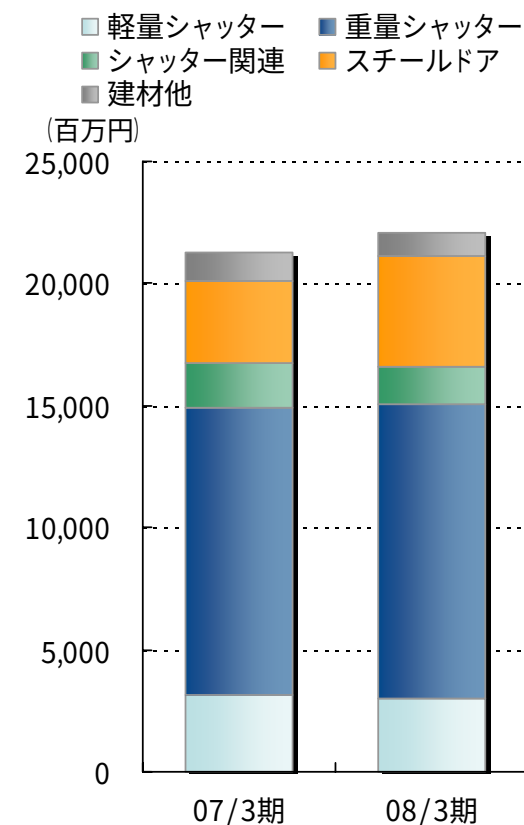
TOYO Shutter

前期末受注残消化の影響

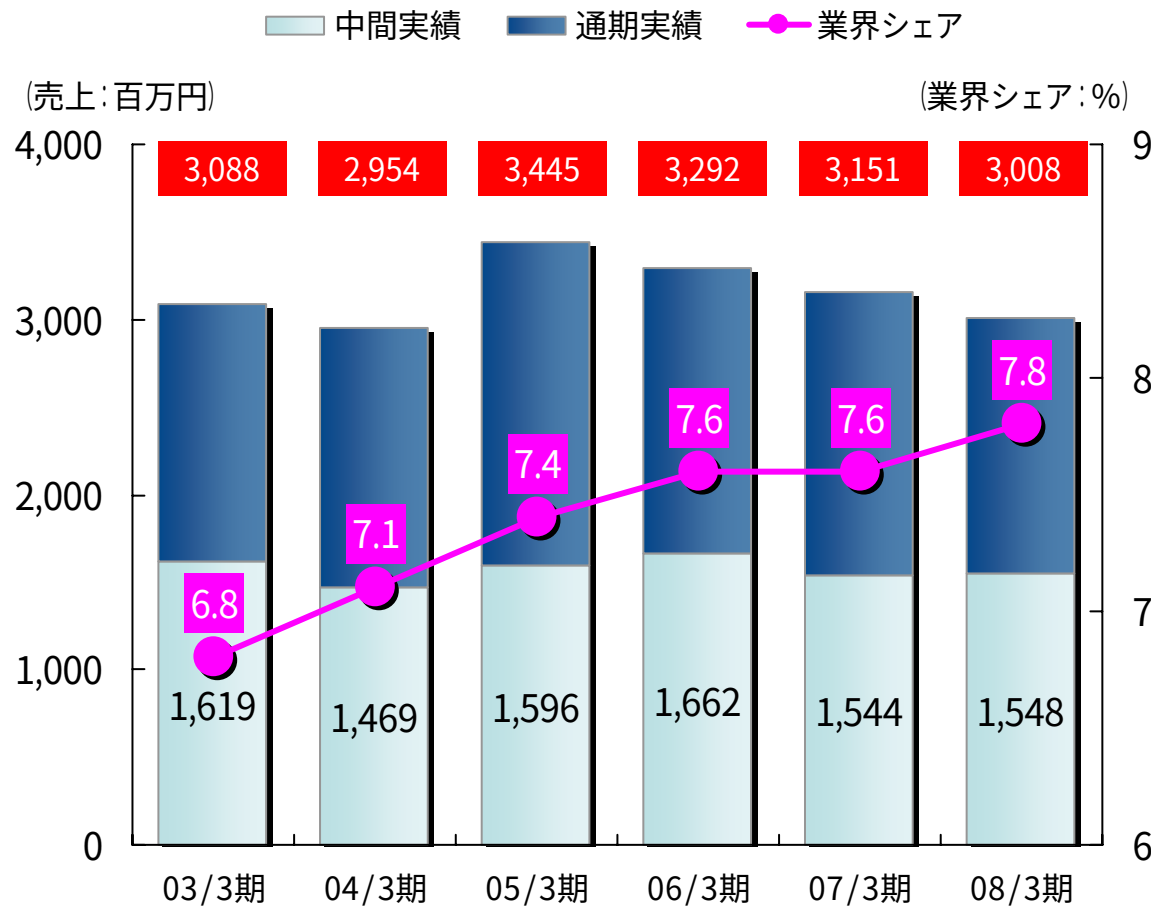
- 重量シャッターは微増
- スチールドアは大幅に増加

(単位:百万円)

	07/3期 決算	構成比 (%)	08/3期 決算	構成比 (%)	前年同期比 増減
軽量シャッター	3,151	14.8	3,008	13.6	△4.5%
重量シャッター	11,780	55.4	12,030	54.4	2.1%
シャッター関連	1,781	8.4	1,537	7.0	△13.7%
スチールドア	3,374	15.9	4,530	20.5	34.2%
建 材 他	1,162	5.5	998	4.5	△14.2%
合 計	21,250	100.0	22,105	100.0	4.0%

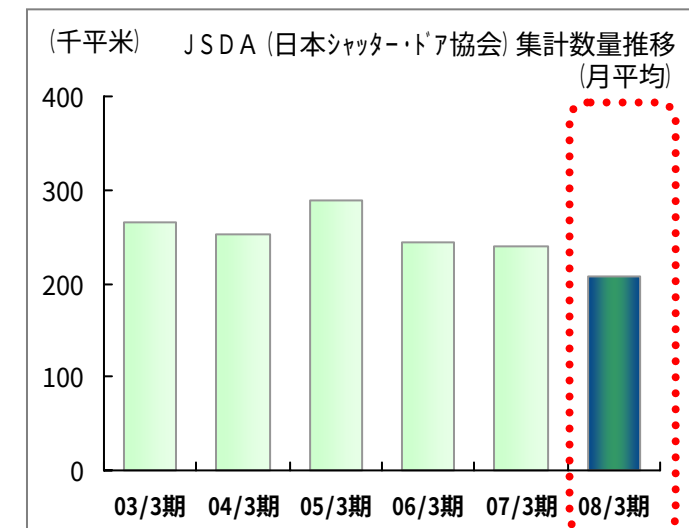


軽量シャッターの状況



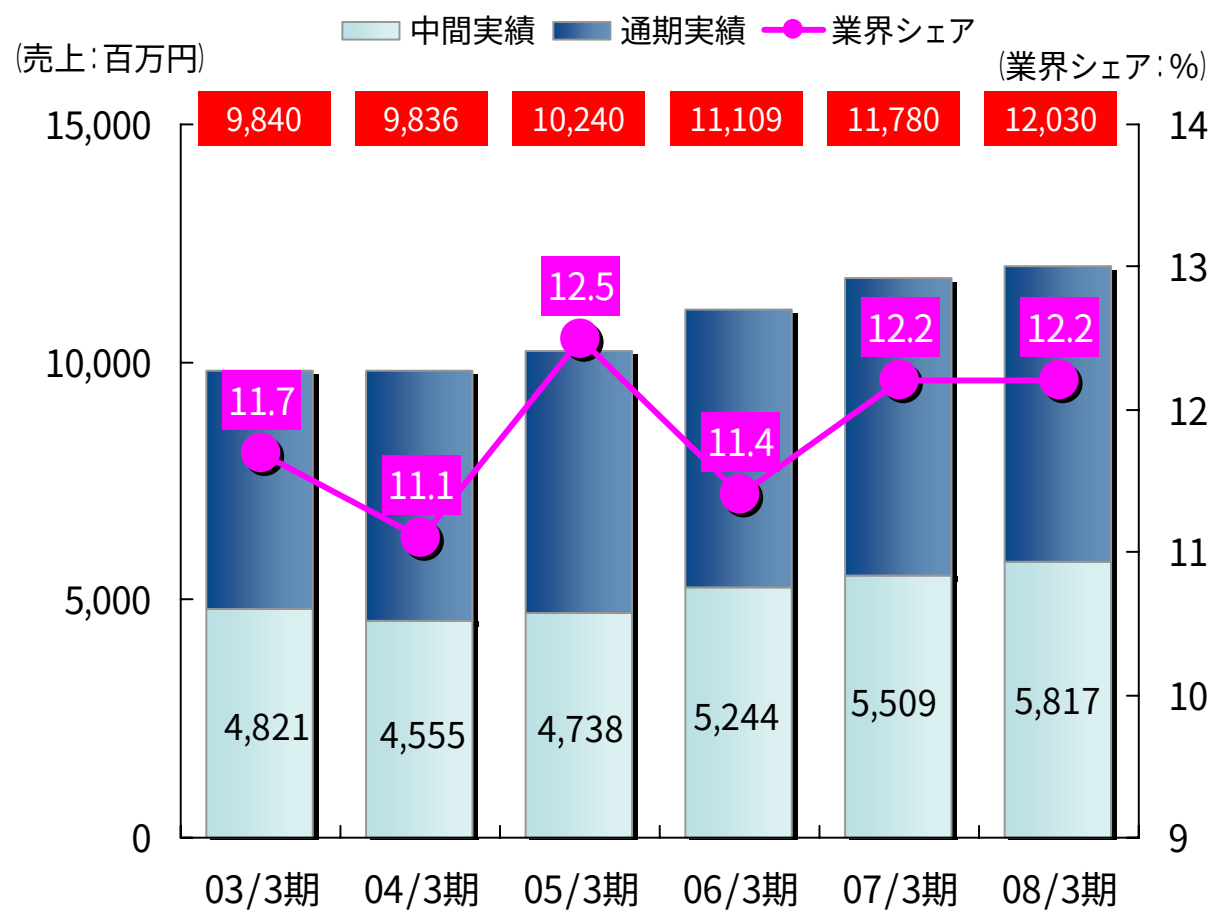
ポイント！

● 業界全体の数量は減少傾向だが、シェアは拡大中



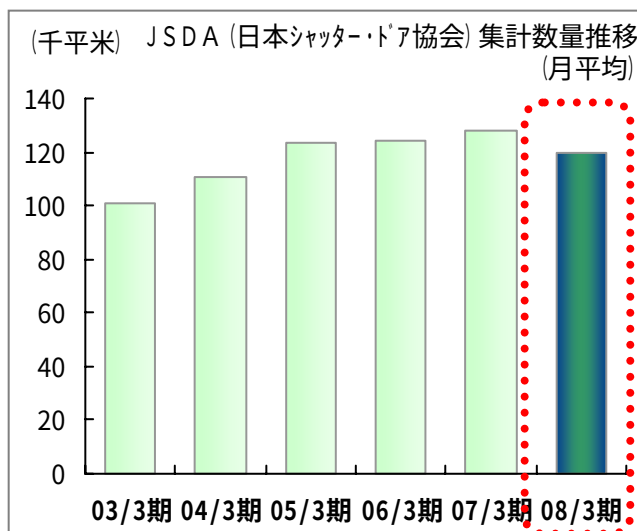
重量シャッターの状況

TOYO Shutter



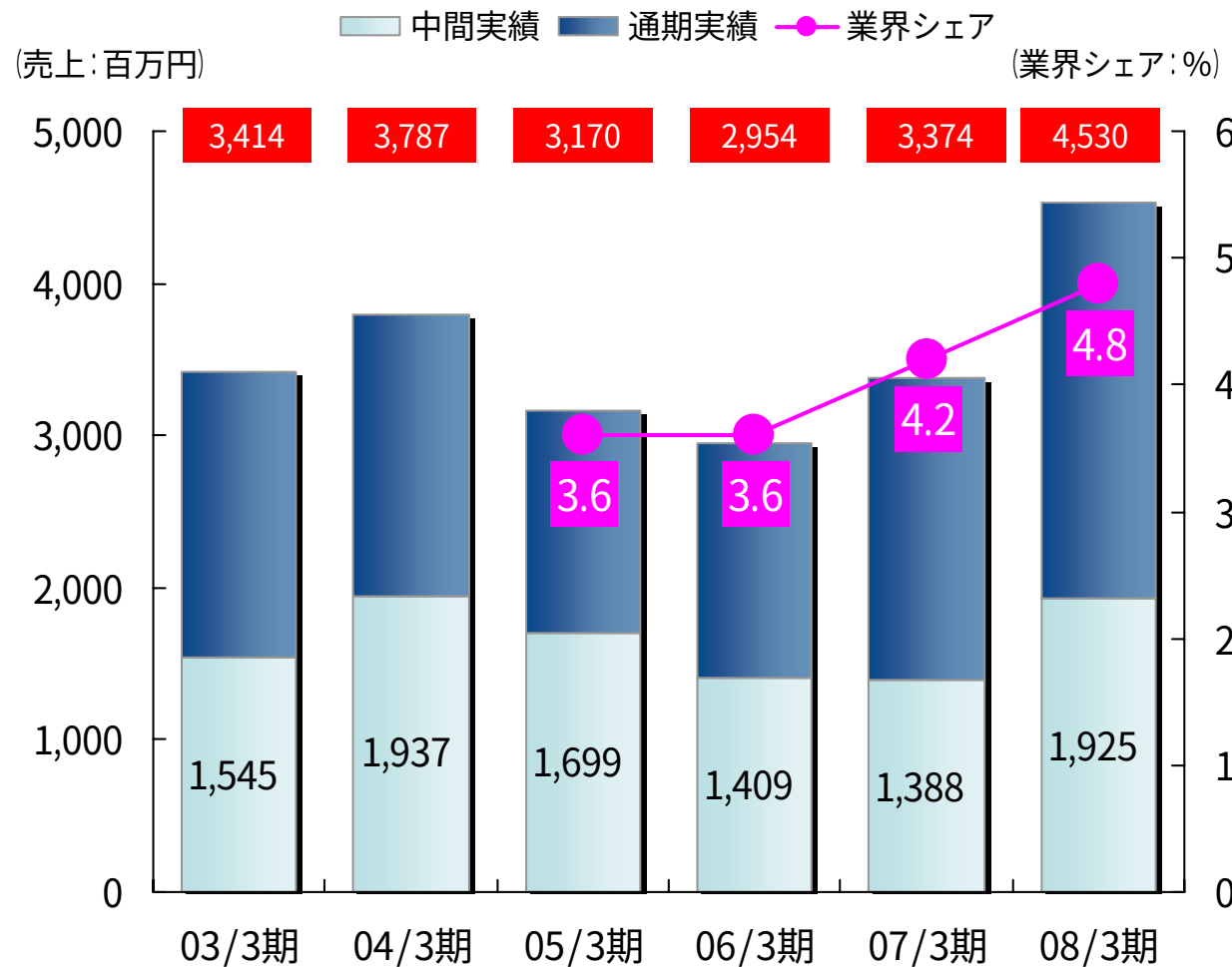
ポイント！

●前期末受注残の消化により上期は順調に推移、
小型案件の急減により下期は前期比微減



スチールドアの状況

TOYOShutter



ポイント!

●売上は増加したものの、低採算の大型案件に傾斜した嫌いがあった

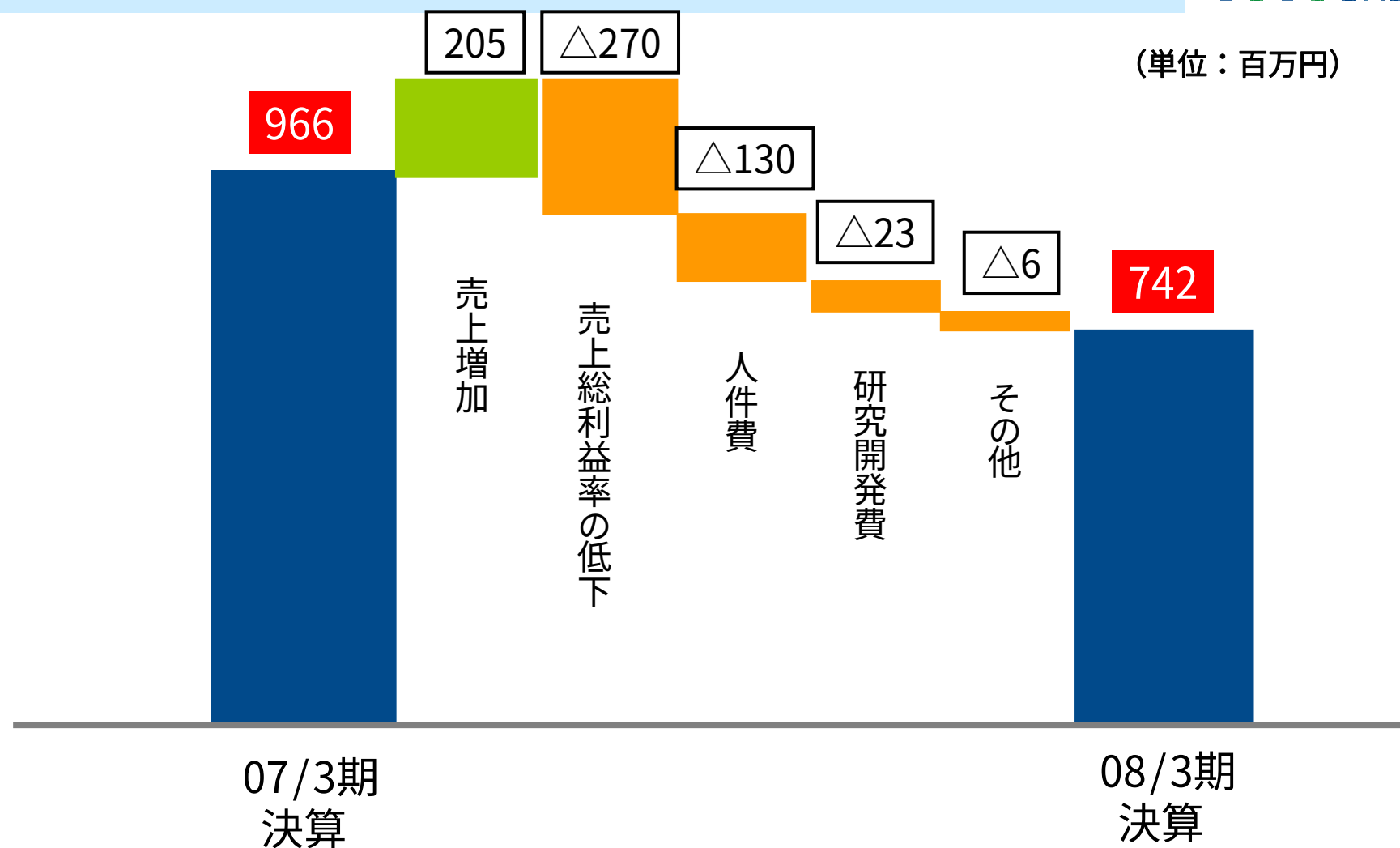


劇場扉

営業利益増減要因(2008年3月期)

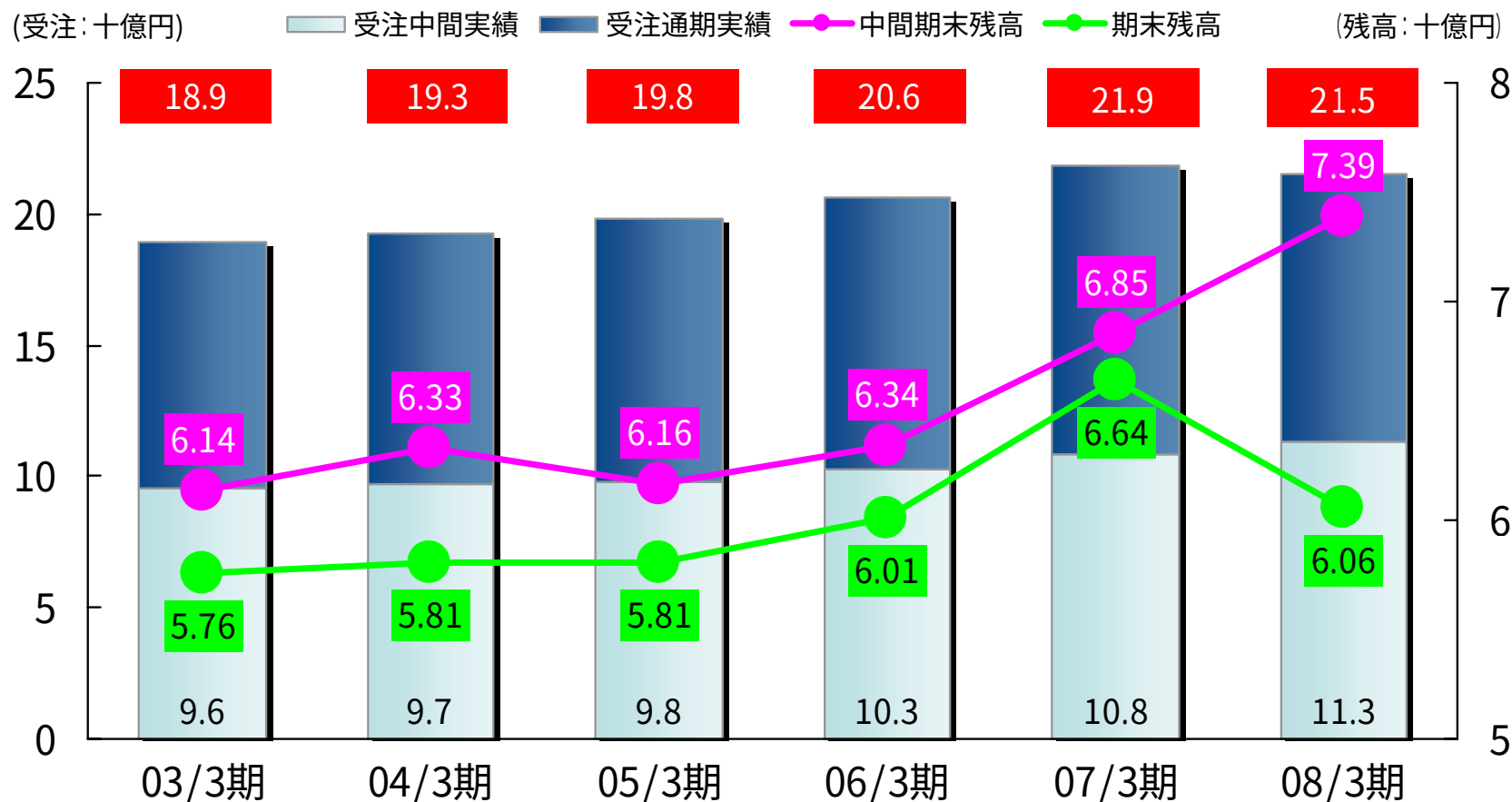
TOYOShutter

(単位：百万円)



受注実績 & 受注残高推移

大型案件の消化と建築基準法改正による受注残高の減少



2008年3月期

キャッシュ・フロー計算書の概要

TOYOShutter

営業活動CF： 厚生年金基金代行返上に伴う影響
および仕入債務の減少

投資活動CF： 固定資産の取得による支出増

財務活動CF： 配当金の支払い増による支出増

(単位：百万円)

	07/3期 決算	08/3期 決算
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,116	670
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32	△201
フリー・キャッシュ・フロー	1,084	469
財務活動によるキャッシュ・フロー	△726	△854

その他トピックス



①新商品の発売

- 耐火クロス製防火・防煙スクリーン「タイカクロス ミニ」
- スリム軽量電動シャッター「カルーナS」
- スプリング併用式電動シャッター

②設計業務の合理化

ベトナムで日系企業への一部アウトソーシング開始

③ISO 9001:2000認定取得

生産製品本部 「技術部」、「奈良工場」 認定取得



新商品
「タイカクロス ミニ」

目 次

1. 2008年3月期 経営環境

2. 2008年3月期 決算概況

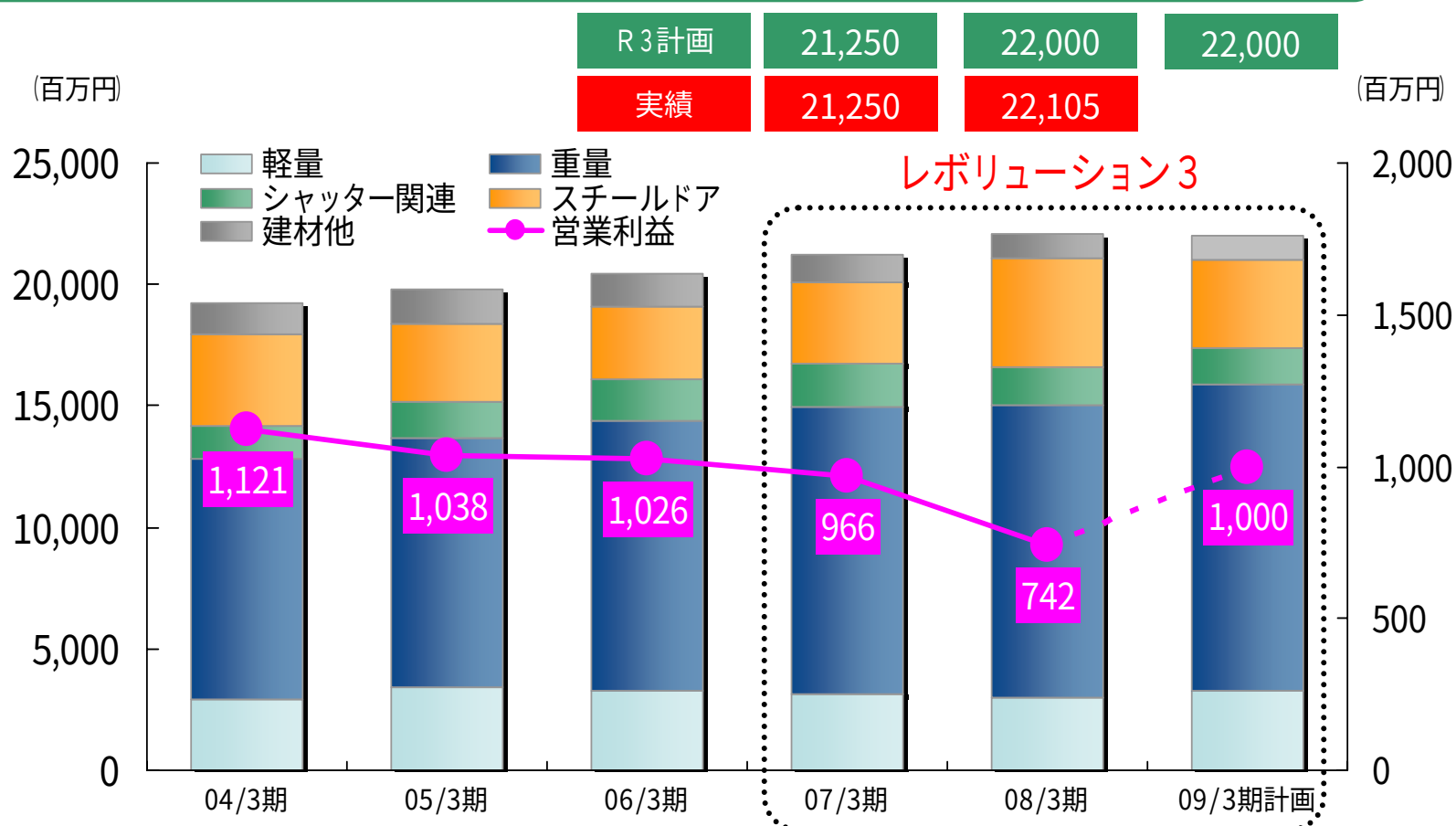
3. 2009年3月期 業績計画

参考資料: 東洋シャッターについて

業績推移と計画

TOYOShutter

外部環境要因を考慮し、中期経営計画の最終数値目標を見直す



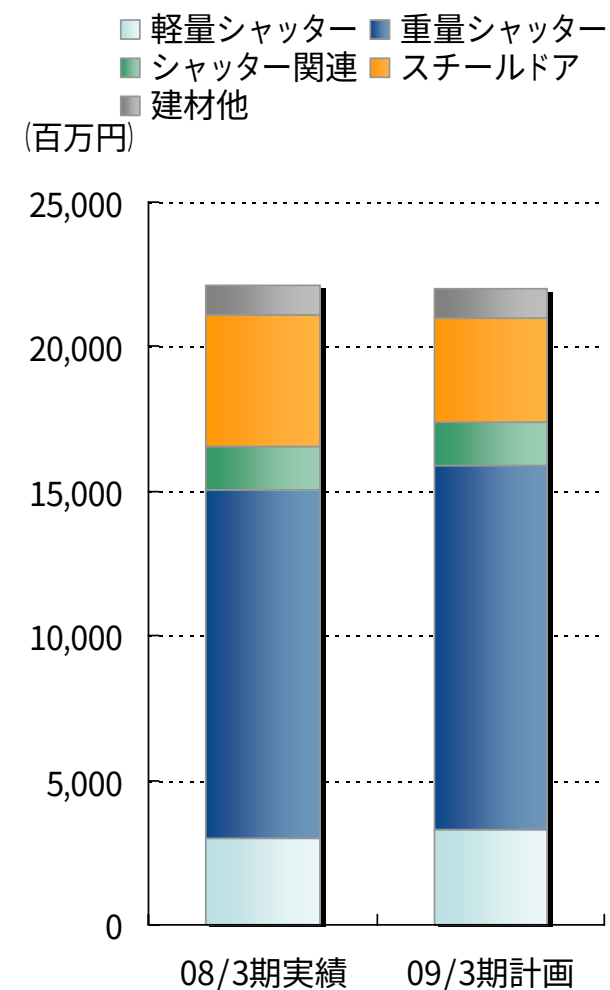
2009年3月期 通期業績計画

TOYOShutter

売上を前期並みに抑え、収益重視の徹底

(単位:百万円)

	08/3期 実績	09/3期 計画	前年同期比 増減
売 上 高	22,105	22,000	△0.5%
軽量シャッター	3,008	3,300	9.7%
重量シャッター	12,030	12,600	4.7%
シャッター関連	1,537	1,500	△2.4%
スチールドア	4,530	3,600	△20.5%
建 材 他	998	1,000	0.2%
営 業 利 益	742	1,000	34.8%
営業利益率	3.4%	4.5%	
経 常 利 益	608	880	44.6%
当期純利益	2,447	800	△67.3%



今期の重点的な取組み



1. 販売価格のアップ

【今期の最重点項目】

原材料値上りに対応した
価格転嫁の推進強化

2. リテール部門の販売強化

高採算部門の強化推進

今期の重点的な取組み



3. 選別受注の強化 大型物件の利益率改善

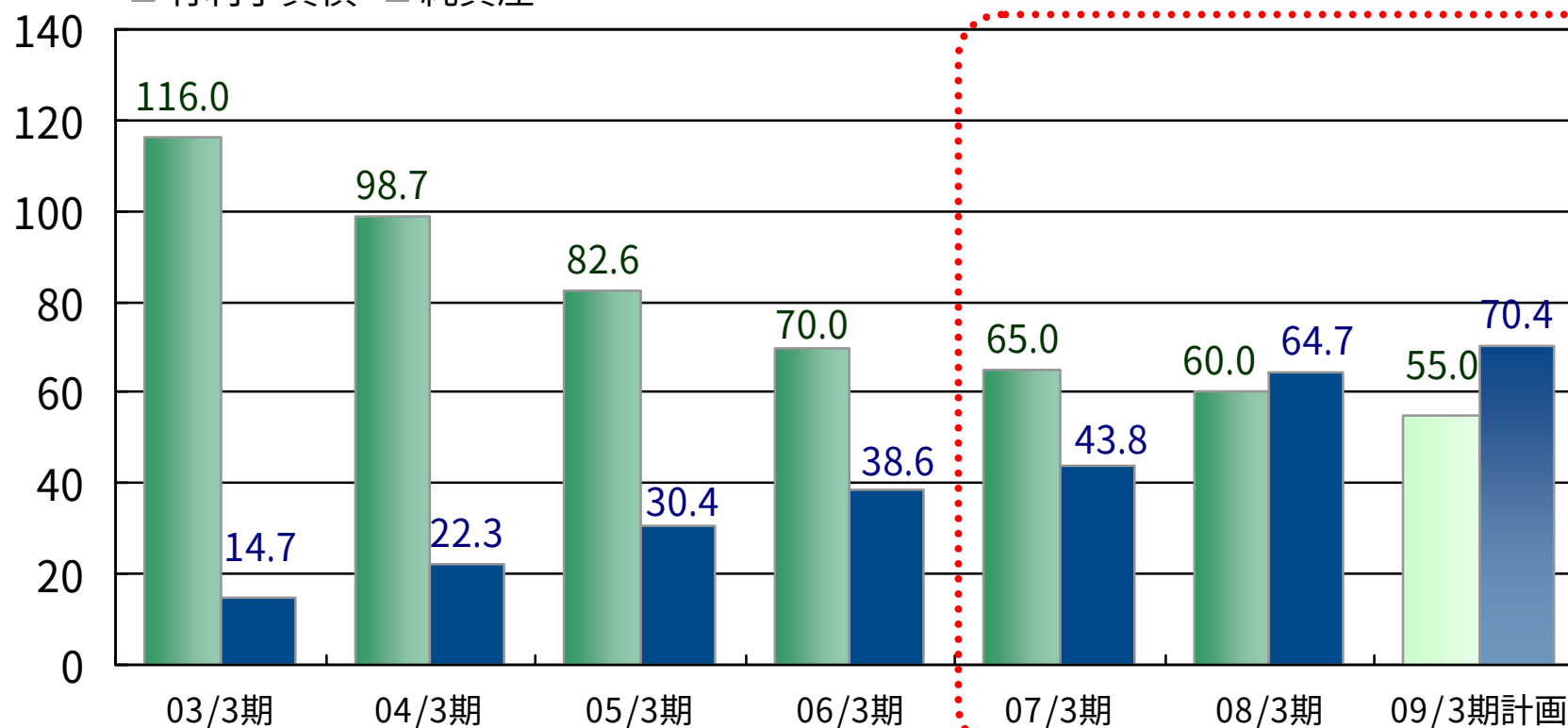
4. 生産性の向上 改善委員会の発足 『T S K A I Z E N委員会』

期末有利子負債・期末純資産の推移

有利子負債を計画通りに削減

(単位: 億円)

■ 有利子負債 ■ 純資産

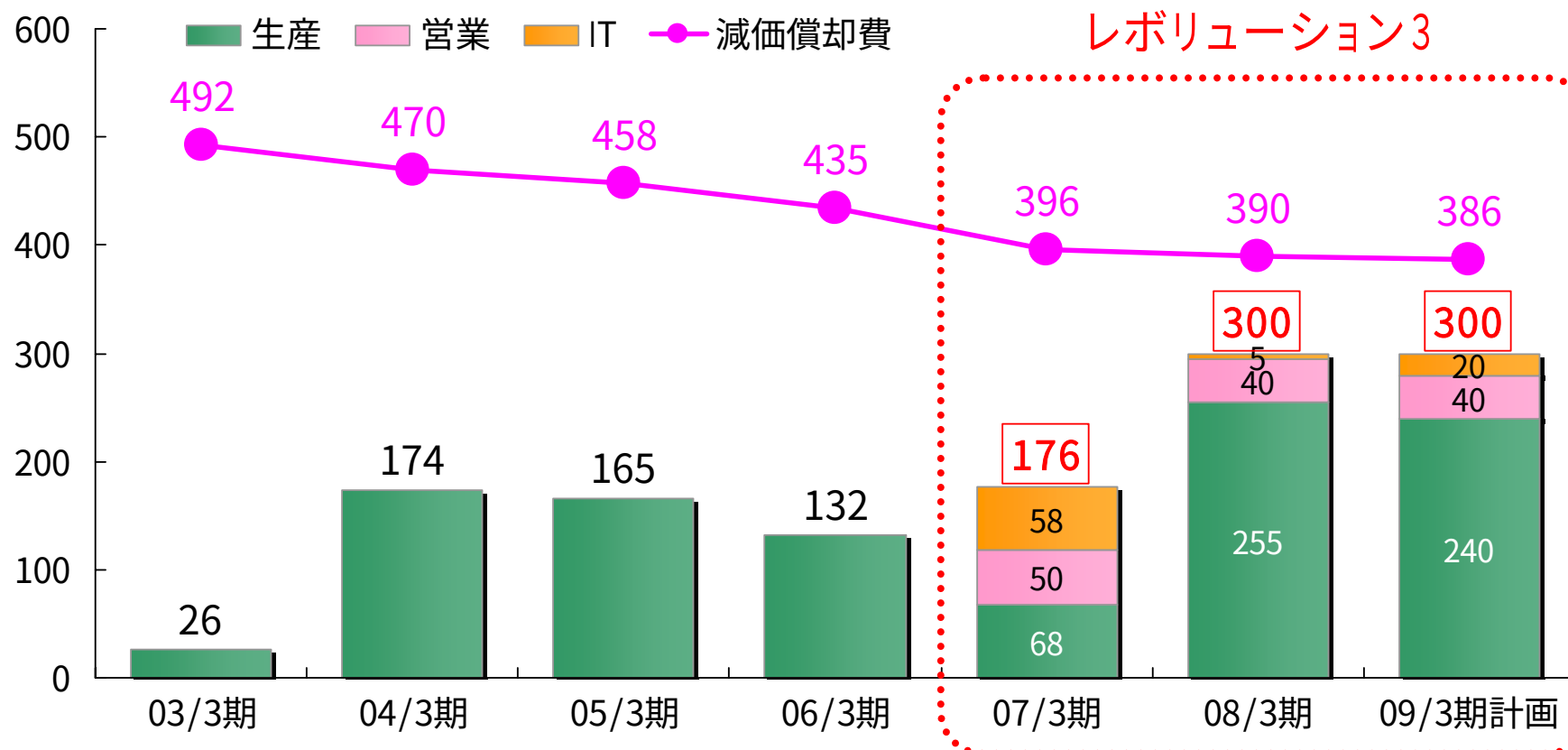


自己資本比率 8.0% 12.2% 16.7% 22.0% 22.4% 35.3%

設備投資額・減価償却費の推移

IT投資の遅れにより、設備投資額11億円→7億8千万円に変更

(単位: 百万円)

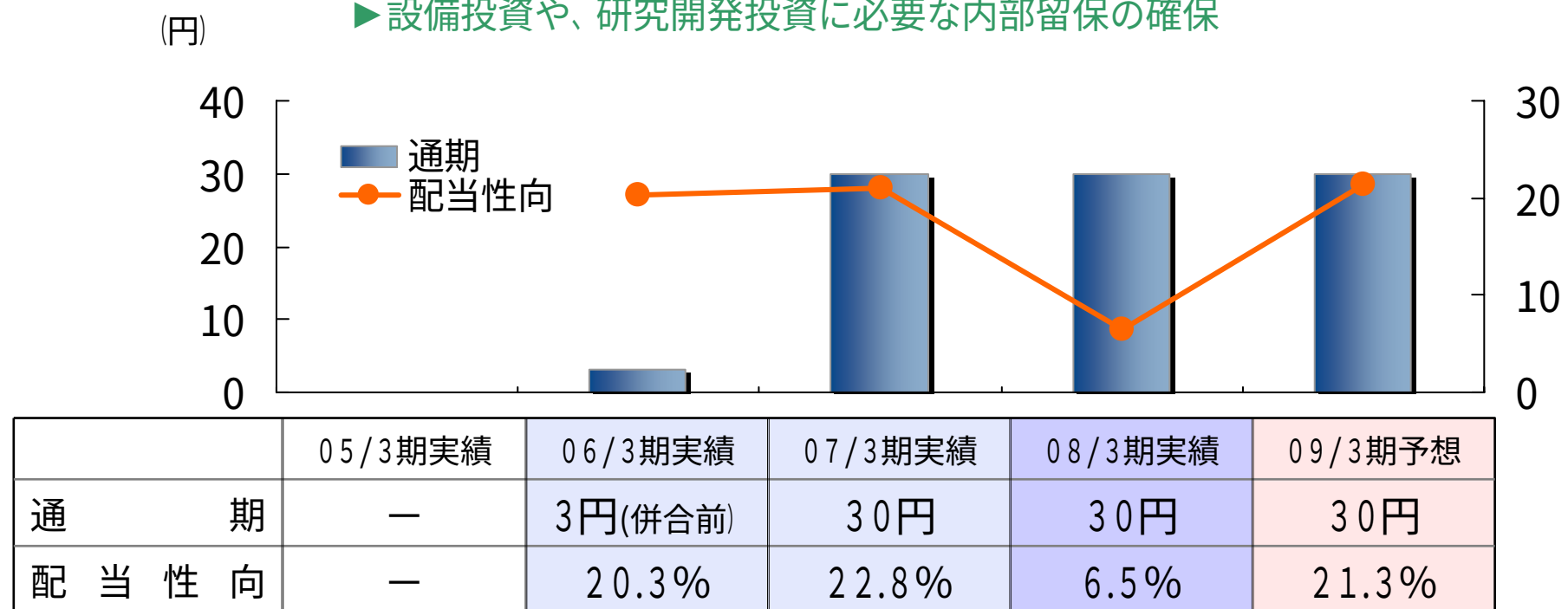


※投資にはリースの実行額を含んでおります。

継続かつ安定した配当を実施

配当性向、実質20%以上の堅持

- ▶ 成長による企業価値向上と、利益還元のバランス最適化
- ▶ 設備投資や、研究開発投資に必要な内部留保の確保



◆08/3の特別利益1,900百万円はキャッシュフローを伴わない利益のため、配当原資から除きます。

目 次



1. 2008年3月期 経営環境

2. 2008年3月期 決算概況

3. 2009年3月期 業績計画

参考資料: 東洋シャッターについて

会社概要

The logo for TOYOShutter, featuring the word "TOYO" in blue and "Shutter" in green, with a stylized camera shutter icon integrated into the "O" of "TOYO".

商 号	東洋シャッター株式会社
設 立	1955年9月10日
資 本 金	18億3,821万円
株式上場	東京証券取引所 (市場第1部 No.5936) 大阪証券取引所 (市場第1部 No.5936)
本店所在地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代 表 者	代表取締役社長 藤田 和育
従業員数	673名 (3月末連結)
事 業 所	2本社、13支店、1営業部、68営業所・メンテナンスセンター、3工場 その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場

沿革



1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制となる
1975年12月	奈良工場を新設し、大阪工場・忠岡工場を集約
1987年10月	(株) 日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株) 南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖する
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2002年 5月	『私的整理に関するガイドライン』に基づく再建計画成立
2003年 7月	大阪市中心部南船場に本社移転
2006年 2月	『私的整理に関するガイドライン』に基づく再建計画終了
2006年 2月	新中期3ヵ年計画「レボリューション3」を策定

決算数値の推移



(単位:百万円)

	04/3期	05/3期	06/3期	07/3期	08/3期
売上高	19,201	19,834	20,421	21,250	22,105
営業利益 (構成比)	1,121 (5.8%)	1,038 (5.2%)	1,026 (5.0%)	966 (4.6%)	742 (3.4%)
経常利益 (構成比)	917 (4.8%)	883 (4.5%)	881 (4.3%)	805 (3.8%)	608 (2.8%)
当期純利益 (構成比)	765 (4.0%)	816 (4.1%)	823 (4.0%)	744 (3.5%)	2,447 (11.1%)

免責事項



この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。